

## 1 学校教育目標

・自ら考え学ぶ人                      ・共に生きる人                      ・健やかに伸びゆく人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・9年間を通したカリキュラムを実践し、将来、社会の一員としての役割を果たすために必要な能力・態度を身に付けた児童・生徒を育成する学校。
○児童・生徒像	・粘り強く、主体的・継続的に学ぶ子 ・心身ともに健康で、情操豊かな子 ・自己実現を図り、社会に貢献できる子
○教師像	・明るく誠実に職務に取り組む教師 ・一人一人の児童の良さを伸ばせる教師 ・児童・生徒が意欲的に学習できる、魅力的な授業を行える教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学校の現状

- (1) 小中一貫教育校の特徴を生かし、9年間で3つの期に分けている。Ⅰ期の1年生から4年生は、東校舎で学校生活を送っている。4年生は最高学年としてリーダーシップを発揮している。Ⅱ期の5, 6年生は中学生と同じ西校舎に在籍し、生徒会活動や部活動に参加している。また、一部で教科担任制授業を行っている。中学校へのスムーズな移行ができており、中1ギャップはない。Ⅲ期の8, 9年生は地域のボランティア活動にすすんで参加し、地域の一員として活躍している。
- (2) 学習面では、中学生の学習意欲及び学力が向上している。家庭学習も定着してきた。小学生の基礎的学力の定着が課題である。
- (3) 全教職員が兼務発令を受けており、合同で校内研究や交流授業を行っている。生活指導においても、児童・生徒の良さや課題を共有し、学園全体で組織的に対応している。
- (4) 地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、「花いっぱい運動」に熱心に取り組んでいる。また、通学時の安全指導や朝のあいさつ運動は、地域とPTAが協力して企画・運営している。地域の学校に対する支援は絶大である。

### 2 前年度の成果

- (1) 新型コロナウイルスの感染拡大防止対策が2年目となり、新しい生活様式での学習方法や学習形態が定着した。タブレット端末を活用した学習を学園全体で系統的・計画的に実施することができた。教師・児童・生徒の情報機器活用能力が著しく向上した。
- (2) 足立区ICT推進校として、タブレットやデジタル教科書を活用した先進的な授業や学習活動が実施できた。

### 3 前年度の課題

- (1) 授業や行事などの教育活動を公開する機会が少なかった。ICTを活用した公開や時間・人数制限をした公開方法などを工夫したい。
- (2) 主体的な家庭学習の充実が課題である。SNS使用時間などを含め、家庭との連携強化が必要である。
- (3) 感染症防止対策のため、対話や発声などに制限がある。その中で、コミュニケーションを図りながら学習を進めていくことが課題である。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中一貫教育の確立	○	○	○	○	○
3	キャリア教育の推進	○	○	○	○	○

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童・生徒の基礎的・基本的な学力の定着をさせ、学力向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査（4月実施） 小学校:75% 中学校:70%</li> <li>年度末到達目標（2月実施） 小学校:75%、中学校:63%</li> </ul>				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
興本小学校									
1 継続	朝学習（Pタイム）	全児童 国語 (読書)	1～4年 火木金 朝 10分間	【指導者体制】担任＋副担任＋学習支援員【取組のねらい・目的】活用できる知識及び技能の習得【使用教材】音読、視写、漢字教材 ※読み物教材（読書）週1回	年1回区調査テスト (2月 次年度の国語)	国語・算数の問題について、通過率80%以上の結果を出す。	自己評価の際に記入		
		全児童 国語 (読書) 算数	5・6年 国語算数の授業開始 5分間	【指導者体制】担任＋副担任【取組のねらい・目的】活用できる国語の知識及び技能、算数の数と計算の習得【使用教材】漢字、視写、計算教材 ※読み物教材（読書）週1回	年1回区調査テスト (2月 次年度の国語・算数)	国語・算数の問題について、通過率80%以上の結果を出す。			

2 継続	○(オー)タイム	1, 2年 全児童 国語 算数	土曜日 3校時 年6回	<b>【指導体制】</b> 担任+保護者ボランティア <b>【取組のねらい・目的】</b> 活用できる国語の知識及び技能、算数の数と計算の習得 <b>【使用教材】</b> 1年 MIM 算数の教材 2年 算数の教材	毎月MIMテスト (1年のみ)  年1回区調査テスト (2月 次年度の算数)	2 <sup>nd</sup> ステージの割合を1月までに半分以下にする。 算数問題について通過率を80%以上の結果を出す。			
3 継続	丸付け交流学习	1~4年 全児童 算数	水曜日 5校時 年6回	<b>【指導体制】</b> 担任+中学生ボランティア <b>【取組のねらい・目的】</b> 基礎学力の定着を図るため、下学年までさかのぼり、つまづきを発見し解消する。 <b>【使用教材】</b> 1, 2年 算数の教材 3, 4年 東京ベーシックドリル	1, 2年 2月区調査 3, 4年 年3回 東京ベーシックドリル (5月(Aテスト)、 9月(Bテスト)、 12月(Cテスト))	算数計算問題について全員が正答率を80%以上の結果を出す。 満点の割合を4割にする。50%以下を0名にする。			
4 継続	放課後補充教室	1~4年 個別指導を要する児童	週4日 放課後 20分間	<b>【指導体制】</b> 全教員 <b>【取組のねらい・目的】</b> ① 下学年の内容のつまづきを解消し、学力を向上させる。 ② 理解が完全でない内容を補うため、ワークテストの間違い直しや解けなかった問題の解き直しなど個人の進度に合わせた課題をする。 ③ 2月・3月には苦手とする問題を重点的に補充学習する <b>【使用教材】</b> 区調査 ワークテストプリント	年1回区調査テスト (2月 次年度問題 国語 算数)	区学力調査(4月実施)通過率:75%  年度末到達目標(2月実施)通過率75%、			

4 継続	放課後補充 教室	5, 6年 全児童 国語算数	週4日 放課後 20分間	<p>【指導体制】全職員 月1回中学生に教えてもらう。 学年補充での教えあいをする。</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>① 下学年の内容のつまづきを解消し、学力を向上させる。</p> <p>② 理解が完全でない内容を補うため、ワークテストの間違い直しや解けなかった問題の解き直しなど個人の進度に合わせた課題をする。</p> <p>④ 2月・3月には苦手とする問題を重点的に補充学習する</p> <p>【使用教材】AIドリル ワークテスト プリント 区調査</p>	年1回区調査テスト (2月 次年度問題 国語 算数)	区学力調査(4月実施) 通過率:75%  年度末到達目標(2月実施) 通過率75%、			
5 継続	授業工夫・改善	全児童 国語 算数	年間	<p>【指導体制】全教員</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>① 自己の課題を明確にし、主体的対話的に取り組ませる。</p> <p>② プログラミング的思考で組み立てた問題解決型の授業を年一回以上行う。</p> <p>【使用教材】AIドリル、教科書 管理職は、年間3回の授業観察時に改善に向けた指導助言を行う。 教科指導専門員による教員への指導を定期的に行う。</p>	年1回区調査テスト (2月次年度問題 国語 算数)	通過する割合が前年度より5%減未満とする。			
6 継続	長期休業中 補充教室	1~6年 個別指導を要する児童 国語 算数	夏休み10 回程度 春休み2 回	<p>【指導体制】全職員</p> <p>【取組のねらい・目的】</p> <p>① 下学年の内容のつまづきを解消し、学力を向上させる。</p> <p>② 理解が完全でない内容を補うため、ワークテストの間違い直しや解けなかった問題の解き直しなど個人の進度に合わせた課題をする。該当学年の基礎学力定着を図る。</p> <p>【使用教材】プリント他</p>	年1回区調査テスト (2月次年度 国語 算数)	区学力調査(4月実施) 通過率:75%  年度末到達目標(2月実施) 通過率75%、			

7 継続	あだち小学生夏休み学習教室	3, 4年 発展コース 希望者 国語 算数	夏休み5回	【指導体制】委託 【取組のねらい・目的】 上位の児童の学力を伸ばす。 【使用教材】区が作成した共通教材	夏休み終了後、事後テストの実施	全員が正答率5%上げる。			
---------	---------------	--------------------------------	-------	--------------------------------------------------------------	-----------------	--------------	--	--	--

扇中学校

1 継続	コンテスト	全学年 国語 数学 英語	年間3回 (各教科年間1回) 始業前10分 放課後20分	【指導体制】担任・各教科担当 【取組みのねらい・目的】朝と放課後、学習内容の復習・確認を行うとともに漢字・英単語、計算等の基礎学力向上を図る。 【使用教材】漢字、英単語、計算等のプリント学習	各教科年間1回、コンテストを実施	12月の学校生活についてのアンケート「コンテスト」についての評価が85%を超える。 毎回のコンテストで、80%以上の生徒が正答率80%を超える。			
2 継続・改善	放課後補習教室	全生徒 国語・数学・英語など	週4回 放課後20分 学年で教科指定 前期4回、後期4回は全学年による数学の教え合い	【指導体制】教科担任+学年教員 【取組み内容、ねらい・目的】 つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別、1対2、少人数指導。進度は各個人で異なるが、復習問題は、期間内に終了するように、1日に進める目安は伝える。 つまずきの多い生徒は教科教員による取り出し指導を行う。 定期考査前はテスト対策を行う。 【使用教材】 問題集・プリント教材・web教材 (eライブラリアドバンス, AIドリルなど)	定着度確認テスト(次年度4月に実施される学年のもの) 7,8年で2月に実施予定	12月の学校生活についてのアンケート「補充教室」についての評価が75%を超える。 2月に実施する定着度確認テストで対象者が目標値を通過する割合が、65%を超える。			

3 継続・改善	サマースクール (数学)	全学年 数学 定期考査で 正答率50% 未満及び同 程度の定着 度の生徒各 学年15~20 名程度	夏季休業 日中7日 間 各日50分	<p>【指導体制】 7年は数学科3名+教員5名 8,9年は数学科3名</p> <p>【取り組み内容、ねらい・目的】 7月までの内容でつまづきを解消する。教科担任の少人数指導のもと、定期テストで解けなかった問題の直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。7年生は小学校のつまづき解消に向けた補充問題も扱う。9年生は必要に応じて受験対策を行う。</p> <p>【使用教材】 プリント教材・web教材</p>	7年生は最終日に確認テストの実施 8,9年生は夏休み明けに学習コンテストを実施	7年は確認テストで正答率が10点上昇する。 8,9年は学習コンテストにおいて、対象生徒の80%が目標正答率を超える。			
4 継続・改善	サマースクール (英語)	全学年英語 定期考査で 正答率50% 未満の生徒 及び同程度 の定着度 各学年15~ 20名程度	夏季休業 日中7日 間以内 各日50分	<p>【指導体制】英語科教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい・目的】 7月までの内容でつまづきを解消する。教科担任指導のもと、定期テストで解けなかった問題の直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。9年生は必要に応じて受験対策を行う。</p> <p>【使用教材】 プリント教材・web教材</p>	サマースクール中に定着度確認テストを実施	定着度確認テストで、対象生徒の正答率が40%を超える			
新規	サマースクール (国語)	全学年国語 定期考査で 正答率50% 未満の生徒 及び同程度 の定着度 各学年15~ 20名程度	夏季休業 日中7日 間以内 各日50分	<p>【指導体制】国語科教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい・目的】 7月までの内容でつまづきを解消する。教科担任指導のもと、定期テストで解けなかった問題の直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。9年生は必要に応じて受験対策を行う。</p> <p>【使用教材】 プリント教材・web教材</p>	サマースクール中に定着度確認テストを実施	定着度確認テストで、対象生徒の正答率が50%を超える			

継続	家庭学習の習慣化	全生徒	通年	【取り組み内容、ねらい・目的】 家庭学習ノートを毎日提出させることで、学習習慣の定着化を図る。家庭学習課題を学年体制で確認する。提出できない生徒に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校・部活参加とさせる。	家庭学習ノートの点検	7月中までに全学年提出率を90%以上にする。その後も継続して提出率を調査する。			
継続	授業改善	全教員 全教科	通年	【指導体制】管理職・各教科担当 【取り組みのねらい・目的】 前時の内容の振り返りや既習事項を頻繁に盛り込むことを意識的に行う。授業のねらいを明確にし、発問や授業形態を工夫し、主体的・対話的で深い学びの授業の実践を意識的に行い、プログラミング的思考力を育てる。 eライブラリアドバンスなどを活用し、学習の定着状況を把握する。また、ICT機器を活用し、調べ学習を行い、情報活用能力を育成する。	定着度確認テスト(=次年度4月に実施される学年のもの) 年間3回の授業観察・自己申告面接 生徒による授業評価(12月)	2月に実施する定着度確認テストで対象者が目標値を通過する割合が、全平均で65%を超える。 12月実施の生徒による授業評価で肯定的な回答の割合が70%を超える。授業などでタブレットを活用できている割合が85%を超える。			

<b>重点的な取組事項－2</b>		小中一貫教育の充実・発展		
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
特色ある教育活動を確実に実践し、保護者・地域から信頼され、児童・生徒が誇りに思える学園を目指す。	開かれた学校づくり協議会及び保護者の肯定的な評価を85%以上にする。	<b>自己評価の際に記入</b>		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>				
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>

小中一貫教育の取組を継承・発展させる。小中一貫教育の視点を明確にし、到達目標を共有し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の項目で、80%以上の肯定的な評価を得る。</li> <li>・児童・生徒の意識調査で、90%以上の肯定的な評価を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と中学校の教員が共同で授業研究を行う。</li> <li>・異学年が交流し、行事や学び合い学習を実施する。</li> <li>・主幹・主任が中心となり学校運営を行う。</li> </ul>			
--------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--

<b>重点的な取組事項－3</b>		キャリア教育の推進			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
児童・生徒が、自ら考え、学習や生活に意欲をもって主体的に取り組めるようにする。		開かれた学校づくり協議会及び保護者の肯定的な評価を80%以上にする。	<b>自己評価の際に記入</b>		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自ら考え、主体的に行動できる児童・生徒の育成	・年度当初と年度末に行う、学習・生活調査で評価を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が授業や特別活動などで、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、児童・生徒の学びを深める。</li> <li>・ICTを活用した教育活動を推進し、情報機器活用能力を向上させる。</li> </ul>			

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。  
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）